

# 新たに3件を町の文化財に指定

町文化財保護審議会（小林宗一会長）は、有形文化財1件、有形民俗文化財1件、無形民俗文化財1件を町の文化財に指定するよう答申し、令和2年3月23日に開催された教育委員会定例会で町指定文化財に決定しました。  
今回の指定を含め、町指定文化財は合計103件になりました。

## 藤生鉄山の山焼き

江戸時代中期には、享保の大飢饉や天明の大飢饉などが立て続けに起き、極限の中で食糧不足対策として、山に火入れを始めたことが起源であると言われている。

この山焼きは藤生区民が丸となって続けられてきた年中行事です。対象地域の大部分が草本群落であることから、途切れなく続けられてきたことがうかがわれます。高地での作業となるため、過去には現地まで馬を利用していたこともあります。

戦前には、屋根材確保の茅場として利用されてきましたが、その後は家畜の敷草や採草地としても重宝し、昭和30年から40年ごろは和牛も放牧されていました。

国内の刈安草地は16カ所と少なく、藤生鉄山はその中でも最大級であり、山焼きの継続によって同地の貴重な植物や昆虫



山焼きの様子

が息する環境、さらには景観が守られています。

## 金銅釣燈籠

善導寺（古町）本堂の両側に備えられている、江戸時代初期に作られたとされる2基の釣燈籠で、それぞれが高さ40センチ、笠、火袋、脚部で構成されています。

笠には宝珠と雫型の煙出しが3カ所設けられており、吹き返しは十二弁の花形で二弁ずつを鋏で合わせ、反り返った各弁の下面中央には宝珠が彫られています。

六角形の火袋は、二面が蝶番による両面扉となり、亀甲繋ぎが透かし彫りで施された六面とも、上部の欄間に四弁の宝相華、下部に波間に浮かぶ宝珠を表しています。

脚部は外側に張り出した花弁形で、魚子地に宝相華を表わしています。脚部に鍍金の剥がれが見られるものの全体的に状態は良好です。おらかさと丁寧な加飾は工芸的価値を有し、また、製作時期や由来が明らかかな点からも、地域の歴史を伝える貴重な資料です。



施主：大山弥十郎



施主：大山六左衛門

## 太政官贖書兩札銅製原版

戊辰戦争中、多額の資金を必要とした新政府が発行した、太政官札の「贖書兩札銅製原版」です。

首謀者は雲井龍雄（米沢藩出身）。自分の信念や理想を貫いた人物で、旧幕臣や脱藩といった不平士族の救済を求めて「帰順部曲点検所」を組織し、その資金源として製造した贖札の原版と思われる。後にこの行動が政府への陰謀とみなされ逮捕、梟首（さらし首）にされました。

その弟で自在院（会津若松市）住職の啓傳も龍雄の行動に協力し、贖札製造に関わったとされています。弟の啓傳は捕縛後の明治3年に牢死しましたが、兄の慶善は逮捕を免れ、啓傳が徳本寺（浅草）役僧龍海の妻タケに預けていた贖書兩札銅製原版を密かに持ち出し、南泉寺の米櫃に隠したと考えられています。

この資料の存在は、当時の会津藩などの置かれた立場や背景もうかがえる貴重な資料です。



原版写真（裏面、表面）

## 新型コロナウイルスへの対応にお疲れの皆さまへ

新聞や報道は、新型コロナウイルス感染症の話題が中心の日々。さらには、県や町からも感染拡大防止のため、たくさんのお願いをしています。

町民の皆さんには、感染防止対策へのご理解とご協力をいただき、大変ありがたいと思います。ただ、感染防止対策に努めるあまり、疲れを感じている方も多くいることでしょうか。

疲れを感じている方に、ささやかではあります、「ほっ」と一息つく情報をお届けするコーナーです。少しばかり、お付き合いください。



4月初めに、南郷保育所にお邪魔しました。子どもたちは元気いっぱい笑顔で迎えてくれました。この笑顔を守るために、もう少しの間がんばりましょう。



元気いっぱいの南郷保育所の子どもたち

喘息やアレルギーをお持ちの方は、目を気にして、咳やくしゃみを我慢している方も多くのことでしょう。会津田島駅の売店「やまなみ」では、特製「うつりませんバッジ」を販売しています。この機会に、ご利用されたいかがでしょうか。

